

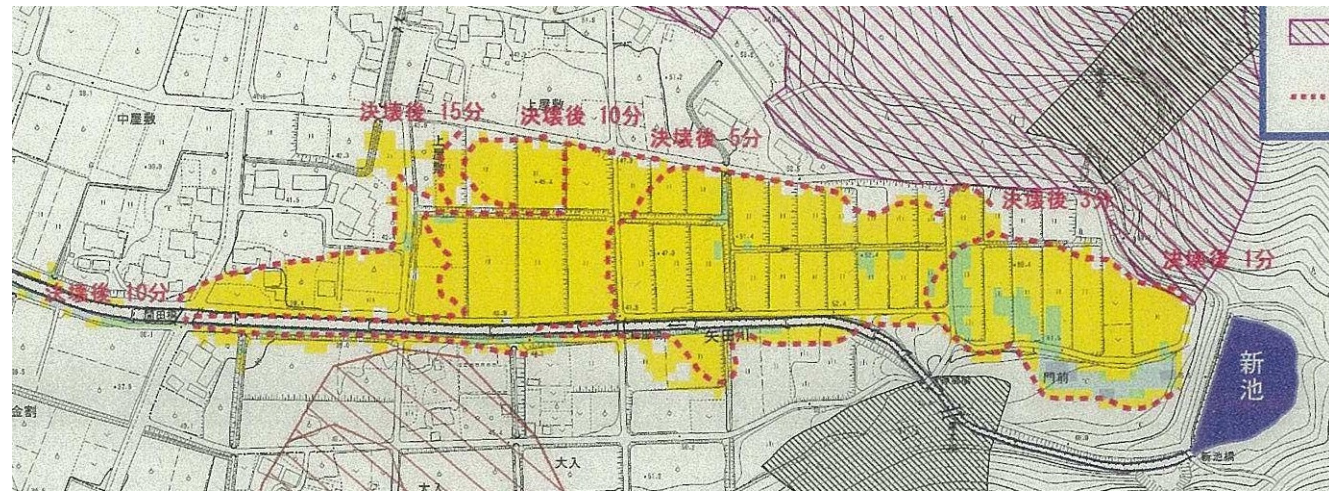
■ 『ため池ハザードマップ』の見方

「ため池ハザードマップ」は、地震や大雨などによりため池が決壊した場合に、氾濫した水がどれほどの深さで、またどのように広がるのかを予測した浸水想定区域や最大浸水深、到達時間を表しています。また、非常時の指定緊急避難場所（学校などの指定避難所や公園などの一時避難場所等）や避難の際に通行上危険である土砂災害危険区域等のほか、避難経路となる主要道路も表しています。

なお、公表されたため池がただちに危険であることを示すものではありません。

このマップを見て、ご自宅や通勤・通学経路など、ご自身やご家族の生活圏内に浸水被害の危険があることを事前に把握するとともに、避難場所や安全な道路を確認し、非常時に備えることが重要です。

■ 浸水想定区域

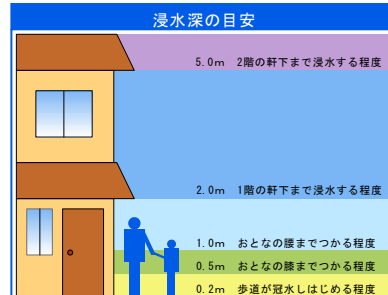


満水時のため池堤体中央部が一度に破壊した場合に浸水すると想定される区域です。シミュレーションにより浸水が到達した時間を経過時間ごとに赤い破線で示しています。

■ 最大浸水深・浸水深の目安

最大浸水深	
5m 以上	5m 以上
2m ~ 5m 未満	2m ~ 5m 未満
1m ~ 2m 未満	1m ~ 2m 未満
0.5m ~ 1m 未満	0.5m ~ 1m 未満
0.5m 未満	0.5m 未満

瞬間での最大の浸水深を示しています。
※継続的な浸水深を示したものではありません。



人や家屋と比較した浸水深の目安です。

■ 決壊の種類

決壊の種類	
<p>浸透破壊 水みち</p>	ため池の堤体に発生した亀裂などが、水みちとなって、徐々に大きくなり、決壊する場合があります。
<p>すべり破壊 水の浸透</p>	ため池に貯めている水や雨などが、堤体の中に浸透して、斜面のすべりが発生し、決壊する場合があります。また、地震により堤体がゆられることにより、斜面のすべりが発生し決壊する場合があります。
<p>越流破壊 水の越流</p>	大雨などにより、ため池に貯めている水が、堤体を越えてあふれ出し斜面を削りとり、決壊する場合があります。

決壊する条件となる大雨や地震は想定できないため、ため池の堤体が壊れる状況を記載しています。

前兆現象としては、堤体にひび割れができる、堤体から水が湧き出すことなどがあります。

■ マップの注意点

- 実際の浸水区域は、浸水想定区域と異なることがあります。
- ため池の貯水量が無くなれば、浸水は徐々に減少していきます。
- 浸水は徐々に広がっていくため、最大浸水深は浸水想定区域全体で同時に発生するものではありません。

■ ため池に異常な現象がみられたとき

- ため池から離れて身の安全を確保したのち、マップに記載されている連絡先までできるだけ早く連絡をお願いします。
- 避難の際には、浸水想定区域を避けるようにしてください。

■ 避難所等の確認

非常時に素早く行動できるように避難場所等の位置を把握することが大切です。避難所等の詳細については、豊橋市防災ガイドブック P31~P34 を参照してください。

■ 土砂災害危険箇所等の確認

がけ崩れ・土石流・地すべりが発生する恐れのある箇所（土砂災害危険箇所及び山地災害危険地区）についてはインターネットでも確認できます。

- ・ マップあいち<土砂災害情報マップ> <http://maps.pref.aichi.jp/>
- ・ ちずみる豊橋<土砂災害情報マップ> <http://www2.wagmap.jp/toyohashi/>
- ・ 中部森林管理局 <http://www.rinya.maff.go.jp/chubu/tisan/kikentiku/140328.html>